

第一部「この道をゆく」

僧太鼓 (USA ニューヨーク)



アメリカ・ニューヨークを拠点とし、オリジナル作品や独自のアレンジを軸に太鼓の演奏を行っている。47年にわたる活動の中で、『ニューヨーク・タイムズ』『サンフランシスコ・クロニクル』『ダンス・マガジン』など主要メディアから高い評価を受け、Korn、Rob Thomas、Post Malone など著名なアーティストとの共演も果たしている。また『セサミ・ストリート』やNBC『Today Show』への出演、カーネギーホール『Citywide Concert Series』など、全米各地の文化イベントに定期的に出演。

権兵衛 Jr. 燎 ~kagaribi~ (福井県)



「花 籠 子 ども太鼓」の卒団生 5 名により 2018 年に結成。2024 年に第 2 期生が『日本太鼓ジュニアコンクール』全国大会初の入賞を果たす。チーム名『燎』の由来は、戦国時代の若き獅子たちの戦う様子を太鼓の打ち込みと所作で表現。天翔けるような優雅さ、静寂さ、荒々しさをモチーフとして、『燕返し』など変幻自在な返し打ちや、太刀廻りを思わせる振付も圧巻の見どころ。情熱の炎を胸に、一打一打に魂を込め、観る人の心を震わせる演奏を目ざしている。

福光もちつき太鼓保存会 (富山県)



南砺市福光町に伝わる郷土芸能。今から約 800 年前の寿永二年、木曾義仲率いる源氏軍と平維盛率いる平氏軍が倶利伽羅山で激突。越中武士団の首領・石黒太郎光弘一族は義仲の軍勢に加わり、地の理に詳しいことから夜陰に乗り、牛の角に松明をともす“火牛の戦法”を用いて大勝利を収めた。この時に石黒一族の凱旋と勝利を祝い、手拍子、足拍子、笛、太鼓を伴奏に威勢よく餅をついて囃したのが『もちつき太鼓』の始まり。男性が太鼓を打ち、女性は杵を持って踊り、最後に搗いた餅が振る舞われる。

第二部「太鼓芸のきわみ」

藤本吉利 (京都府)



1972 年「佐渡の國鬼太鼓座」に入座。81 年『鼓童』創設メンバー。多くの舞台に立ち、『大太鼓』『屋台囃子』ほか舞台のクライマックスを飾った鼓童の最年長。近年はゲスト出演や研修生の指導、ワークショップ講師、藤本容子との唄と太鼓の『二人行脚』など、幅広い活動を行っている。『鼓童』の名の由来同様、永遠に太鼓の『童』でありたいと願う太鼓大好き人間。2017 年、住所を故郷の京都に移し、地元の活性化活動にも取り組んでいる。翌 18 年に太鼓歴 50 周年を迎え、記念著書『藤本吉利 たいこわらべ五十年』を出版。



写真 / 高田健司

今福優 (島根県)

益田市匹見町を拠点として活動。24 歳で田耕氏率いる和太鼓グループ『鬼太鼓座』に入座、国内外の公演に参加。4 年後にソロ活動を開始。大太鼓の打ち込みに定評があるほか、自身の故郷に伝わる石見神楽を舞台用にアレンジした作品も多く生み出し、フランス・オーストリア・カナダ・モロッコ・ブラジルなどへの海外遠征も多数。近年は後進への指導にも力を入れ、和太鼓を通じた子供の育成や学校公演にも積極的に取り組んでいる。2003 年より末長愛・堂本英里との『今福座』主宰。

八丈太鼓の会「親子太鼓」(東京都)



東京から太平洋上を南下すること 290 キロに位置する八丈島に伝わる『八丈太鼓』は、打ち寄せる波音をイメージさせる明るくどかどかで心地よい音色を特徴とする。島の人々が集う時、太鼓はなくてはならない楽しみで、一つの太鼓の表(上拍子)と裏(下拍子)を二人で打つ両面打ちが刻む独特のリズムは、打ち手それぞれの個性的な音色を生み出し、太鼓に合わせて歌う『八丈ばやし』も味わい深い。

能登・豊年祭太鼓(石川県)



能登半島中部の七尾市と志賀町一帯に古くから伝わる『豊年祭太鼓』のリズムを全身全霊で打ち込む。一つの太鼓を大バイ・小バイで表現し、かっぱい打ち込む大バイと、軽快にリズムを刻む小バイとの絶妙のコンビネーションは、聴く者の心をわくわくと躍動させる。能登に伝承される和太鼓の“和”を大事にしつつ、親子や老若男女の幅広い世代に太鼓の素晴らしさを広める姿は、この上なく力強く美しい。

太鼓本舗かぶら屋 (広島県)



1997 年に広島にて結成。和太鼓・篠笛・民舞・民謡を織り交ぜ、古き良き日本のたたずまいをとどめる伝統楽曲や、力強く繊細な和太鼓のオリジナル曲で演出する舞台を続けている。ふるさと広島県の音、古くから残る素晴らしい芸能や音楽を舞台の中心に、新しくも懐かしい、皆さまに楽しんでいただける舞台を創造することを目指す。和太鼓を通じて『国際平和文化都市』の名を持つ広島で、文化というキーワードを支える一つの集団として、私たちのメッセージを広く発信していくことを目指している。